

会議等名	平成30年度 第1回 海老名市総合計画審議会
日時	平成30年10月18日(木) 10:00～11:30
場所	海老名市役所 3階 政策審議室
出席者	<p>委員：今泉委員、桐生委員、小林委員、萩原委員、深須委員、藤田委員、内山委員、杉山委員、舘委員 (欠席：武井委員、濱田委員、吉岡委員、勝田委員)</p> <p>事務局：財務部長 柳田理恵 財務部次長 藤川浩幸 財務部参事兼企画財政課長 清田 聡 企画財政課政策経営係長 川崎 宗一 企画財政課政策経営係副主幹 志村 政憲 企画財政課政策経営係主任主事 関野 大輔</p>
1 開 会	
2 議 題	
(1) 次期総合計画について	
	次期総合計画に関する資料に基づき、事務局から説明。
	<質疑・意見等>
	委員：説明の中で、グラデーションと言っていたが、イメージが分からなかったので再度説明していただきたい。
	事務局：グラデーションの意味は、色がはっきり区切られているのではなく、ぼんやり色が移っていく様子。色を完全に区切ってしまうと、その分野、分野で完全に仕切られてしまうイメージになる。実際には、個別計画であったり、政策は部をまたいで行っていたり、計画付けられているものというのも想定されるので、それを完全に区切ってしまうのではなくて、それを一体にできるような意味で表現した。
	委員：グラデーションという意味は、ファジーなイメージと受け取ってよいか。
	事務局：そのとおり。
	委員：コンサルタント支援事業者だが、このランドブレイン株式会社は市政とか行政に対するコンサルト会社ということか。
	事務局：行政の計画等を支援するコンサルタント事業者である。このランドブレインについては、第四次総合計画、平成28年度に策定した人口ビジョンや総合戦略等を支援していただいている業者である。
	委員：この会社は、他の行政関係でも使っているか。
	事務局：このような計画をコンサルタントに入ってもらった場合は、競争入札やプロポーザル等で委託していると思う。

委員：ワークショップというのはどういうものなのか具体的に説明してほしい。

事務局：ワークショップは、イメージとしてグループに分かれ、そのグループでテーマに沿って意見交換等をするものである。

委員：グループ討議みたいなものか。

事務局：そのとおり。

委員：グラデーションの図だが、隣同士のものだけでグラデーションになっている。しかし、実際には、対角線上も全てである。それがうまく表現できていないように思う。

事務局：現在、イメージという形で示させていただいているが、ご指摘のとおり、全体が横断的にかかっているので、今後も検討させていただきたい。

委員：市民アンケートは毎年実施されているのか。

事務局：市民アンケートについては、次期総合計画策定に伴うアンケートとなるため、毎年というよりは、この次期総合計画に伴った1つのアンケートとご認識していただきたい。なお、市民相談課で隔年、2年に1度、市政アンケートという形で実施している。

委員：今後、この次期総合計画に関するアンケートを再度行う予定はあるか。

事務局：この次期総合計画に伴うアンケートは、今後は特に予定はしていない。

委員：アンケートの目的というのは、もちろん市民の方の声を聴くということだと思うが、アンケートはその年、その時の意見。同じ質問があった場合の、年度による、時期のずれによる差というところも、恐らく評価の1つになるものなのだと思う。そうした意味では、今回のアンケートで全て反映させてしまうという予定なのか。

事務局：市民アンケートだけでなく、市民ワークショップの意見なども頂きながら、最終的に骨子案を作っていく予定である。その段階で、パブリックコメントも予定している。広く市民に周知して、意見をフィードバックしながら策定していきたいと考えている。アンケートはこの1回になるが、引き続き、市民の意見を聞き、より良いものになるよう詰めていきたい。

委員：承知した。

事務局：補足させていただくと、まずはアンケートという形で、無作為抽出3,000人に送付させていただいた。さらに、市民ワークショップという形で3回にわたってさまざまな声を聴かしていただく。また、総合計画審議会委員の中にも、市民公募という形で手を挙げてくださった方もいらっしゃる。最後にパブリックコメントで、出来上がったものに対して、市民から意見をいただく。その都度、計画が進んでいく段階で、それぞれ示して、またフィードバックさせていくという、こういうやり方を何回か繰り返すようなイメージを持つ

ている。

委員：市民アンケートの結果を広報えびなに掲載することはあったか。

事務局：結果を広報に掲載したことは今までにないと認識している。

会長：冊子か何かになるのか。

事務局：現在、分析中であるが、最終的には冊子のようなもので、コンサル事業者から提出していただく予定となっている。

委員：先ほどのワークショップ方式において、ワールドカフェ方式とあるが、日本語で言うと。

事務局：ワールドカフェはワークショップの手法のうちの1つになる。ワークショップというのは1つのグループで、意見交換を交わすものだが、ワールドカフェは、グループはあるが、時間を区切って、グループ員が他のテーブルに移っていく。バラバラになって、それぞれのテーブルでまた意見交換をして、自分のテーブルに戻り、最後にそのテーブルで意見交換をするといったイメージのものである。

委員：これは感想と意見だが、グラデーションの図だが、今までの第四次総合計画はピラミッド型で、会社の組織のような堅いイメージがしたが、今回の新しいイメージは、円なのか球なのか、うまくつかめないが、何となく球的な感じがして、核となるところに基本理念と将来展望を置いて、それが周りに広がっていく。宇宙のような新しい感じがして、新しい総合計画にふさわしい、とても良いイメージを持った。

委員：市民アンケートの経緯についてだが、今回は3,000人の方を対象に、年代別に研究されたと思うが、いろいろな意見が来ると想定されるが、それが全てではないと思っている。先ほど説明があったように、やはりこれからいろいろな団体とか、いろいろな思いを持っている人たちの意見を聴いて、それをぜひ総合計画に入れていただきたいと思う。また、次期総合計画の期間だが、大体何年ぐらいを想定されているのか伺う。

事務局：イメージ図については、一定の評価をいただいたということは、われわれ事務局方としては非常にありがたいと思っている。また、計画期間については、10年間を考えている。

(2) 総合計画の体系案について

総合計画の体系案に関する資料に基づき、事務局から説明。

<質疑・意見等>

委員：右側の政策を構成する要素例というのは、これは具体的な事業そのものを示していると捉えればよいのか。

事務局：参考と記載しているが、施策を構成する要素例としているのは、第四次総合計画でいう施策をイメージしていただきたい。

委員：PDCA サイクルというのがある。plan-do-check-action という。この中の C の部分について、どのように対応していくのか伺いたい。

事務局：PDCA サイクルで、P が次期総合計画である。do は事業化していく。C は第四次総合計画の実施計画について、毎年度行政評価という形で評価をしている。次期総合計画も、この行政評価をどのようにしていくか、また、次期総合計画の絵形がはっきりしていない中で、個別事業の評価方法については、今後の課題である。

委員：この各分野に対して、どこに重点を置かれているのか。

事務局：重点を、予算の規模や職員の数という形に絞るとすれば、この中で人員、予算、規模ともに多いのは 2 番目の健康・福祉である。平成 29 年度の決算について 9 月の議会で行ったが、その中で、どうしても使わなければいけない、いわゆる扶助費といわれる、生活保護や子どもへの施策などは、海老名市では年々上がってきており、100 億を超えたところである。

委員：先ほどのコンサル会社だが、こちらの委託料はどのぐらいか。

事務局：今年度と来年度、2 カ年の契約になっており、2 カ年で 1,000 万円。

委員：市民アンケートの対象者は 3,000 人とのことだが、回収率がどのぐらいなのか。また、内容はどのようなものであったか伺う。

事務局：回収率は、3,000 通のうち約 1,000 通回収し、率としては 30% 超となっており、現在分析中と聞いている。そして、アンケートの内容については、市民生活に関わるものを最重要点としてアンケートを実施した。この計画体系には直接的なものはないが、パブリックコメントにおいて市民の皆さまからのご意見は頂戴したいと考えている。

委員：市民の声というのは大事なことなので、さまざまところに反映さしていただきたい。

(3) 策定スケジュールについて

策定スケジュールに関する資料に基づき、事務局から説明。

<質疑・意見等>

委員：PT という略はプロジェクトチームという意味でよいか。

事務局：そのとおり。

会長：たくさんのご意見を頂戴したが、本日の整理として、まず1つは、デザインや、それから策定のプロセスをこれから検討していく。全体の体系としてはこれで進めていただきたいということだが、柔軟な対応をとという意見が多かったように思うので、まずその点をご配慮いただきたい。その柔軟な対応については、特に市民の声ということなので、ワークショップを重ねて、それから職員の声も入れて、さらにこういう決定の場にも市民の方が関わられるという、非常に積極的な市民参加を取り入れるプロセスを考えていると思うが、さらに、そうした声をオープンに進めていただきたい。限られた財源の中で、どこを重点的にやるというのはとても難しい決定になるかと思うが、その点に配慮いただきたい。意見が多かったのは、PDCAのうち、きちんとチェック機能を充実させるようにという意見も頂戴したので、その点についても配慮いただきたい。この計画がしっかりと機能するように、われわれはしっかりとした議論をこの中でやっていくということはとても重要である。本日も大変積極的な意見を頂いて、皆さんのご意見で鋭いところを突かれていると思う。引き続き、この総合計画の審議を深めて、次期総合計画を海老名市できちんと機能するものに変えていけたらと思う。皆さんもそのような形で、ぜひ、引き続きご尽力いただきたい。

(4) その他

<質疑・意見等>

特になし

3 閉 会

以 上